

# 鹿沼市新庁舎整備市民会議 第1回会議 議事録

日 時：平成29年 6月27日（火）13時30分～15時25分

場 所：菊沢コミュニティセンター 第1・2研修室

出席者：鹿沼市新庁舎整備市民会議委員

委員長：三橋伸夫

副委員長：鈴木節也

委員：横尾武男、津久井健吉、山菅昭八、吉澤辰治、井戸道廣、宇賀神正雄、渡辺保、

福田七右衛門、石川大悟、小島正男、大塚美津子、山崎晴美、岩瀬昭子、

吉村アヤ子、永田由美子、清水浄、松島良子、風間教司、石澤久子、

大出ヨシ、藤田雄一、石川昭男、松山裕

（欠席者 木村剛考、柴山淳、葉山廣、徳原英晴）

事務局：水嶋財務部長、篠原庁舎整備推進室長、黒川主査、井上主事

## 議事内容

### 1. 開 会

- ・事務局による開会
- ・鹿沼市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づく、会議の公開について説明
- ・出席状況により過半数を確認し、委員会成立の報告

### 2. 「鹿沼市新庁舎整備市民会議」について

（事務局より説明）・・・『資料1』参照

- ・会議の役割、任期等を説明
- ・会議設置要綱に基づく市長の指名により、三橋宇都宮大名誉教授が委員長を、鈴木自治会連合会副会長が副委員長を務めることを報告

### 3. 委員長あいさつ

- ・鹿沼市の新庁舎整備については、基本構想と基本計画策定の会議にも参加させていただいた。基本構想では位置が最後まで決まらず、現庁舎位置と下水道用地の2箇所を併記し答申した。その後、基本計画の策定をもって、建設費の高騰により事業を休止し、約2年が経過した。しかし、昨年4月に熊本地震があり、耐震補強した庁舎が大きな被害を受け、災害拠点としての機能を果たすことができず、これを受け鹿沼市としては防災拠点の整備を最優先すべきとし、事業を再開させることとなった。昨年11月からオフィス環境等調査を実施し、庁舎環境や市民の利用状況等、詳しい調査が行われ、基本設計の基礎的な資料が概ね整ってきたところであり、基本計画で謳っている「現庁舎位置」、「総事業費60億円以内」、「木造、木質化の推進」という3つの方針を踏まえ、市民会議での意見を集約しながら、基本設計を進めていきたい。第1回目の会議であり限られた時間ではあるが、忌憚のない意見を頂戴できるよう願います。

### 4. 委員紹介

（事務局より紹介）・・・『資料1』参照

- ・新庁舎整備市民会議委員29名及び事務局4名の紹介

## 5. 議 事

### (1) これまでの経過について

(事務局より説明)・・・『資料2』参照

- ・新庁舎整備事業の経過概要（主にH28年度について）を説明
- ・基本構想の概要説明
- ・基本計画の概要説明

### (2) オフィス環境等調査業務の報告について

(事務局より説明)・・・『資料3』、『参考資料』参照

- ・オフィス環境等調査業務報告（概要）を説明
- ・その他調査概要、分析結果、課題及び考察について説明

### (3) 今後のスケジュールについて

(事務局より説明)・・・『資料4』参照

- ・新庁舎整備事業のH29年度スケジュールについて説明

### (意見交換)

委員 長：今後のスケジュールについて、特に公募型プロポーザルについて補足説明する。プロポーザルとは、設計業者を選定することである。設計業者に対し、いくつか課題を示し、それを解決する技術を提案してもらい、その良し悪しで審査を行う。実際に審査を行う会議が設計者選定審査委員会である。第2回目の市民会議ではプロポーザルの技術提案にかける課題等について話し合う。それを踏まえ、設計者選定審査委員会で審査を行い、設計業者を選定する。その後、第3回目の市民会議で設計業者から提案のあった内容について、さらに要望や意見を頂ければと思う。市民会議は基本設計が終了するまでとなるため、第3回目以降も引き続きよろしく願いたい。

委 員：オフィス環境等調査について説明を頂いたが、実際に必要なことだとは思いますが、内容が専門的過ぎると思う。市民会議ではハッキリとした方向性だけ示してもらえれば良いのではないかと思う。

個人的なことであるが、最近、仕事の関係で尾道市長と話をする機会があった。尾道市も現在市庁舎整備の検討を行っており、「稼げる市庁舎」を作ると考えているようである。いかに掛かった税金、コストを回収できるかということで、具体的には、会議室等を貸し出して国際会議等を誘致し、そのまま、まちへ繰り出してもらい商店街歩きや飲食、宿泊をするといった「まちとの連携」を考えている。鹿沼市においても、例えば、誘致活動をしてビジネスホテルが来てくれないという問題があるので、新庁舎にホテル部分を作り、市で運営するのではなく民間に貸し出すことにより、ランニングコストの一部を回収できるのではないか、そういった考え（公民連携）があってもよいのではないか。説明を受けたスケジュールでは難しいことは分かるが、3年前に御殿山公園の 利用について提案した際は、埋蔵文化財調査が3年程度必要となり遅れてしまうと説明を受けたが、現状はまだこの話をしている状況である。50年後、100年後を見据え、今回の調査のオフィスの機能の他、望まれる庁舎像でいう「まちづくり」、「経済性」、「シンボル性・イメージアップ」といった議論を幅広く行い、プロポーザルに組み込んでいただきたい。

委 員：今回の説明では、予算がなく、機能一辺倒という感じがしてしまう。市役所は「まちの顔」であるので、新庁舎には、ユネスコに登録された屋台を展示できる場所を作る等、観光地となるような見る価値のある庁舎、ゆとりのある庁舎を作ってほしい。現在の庁舎

は狭く、洋式トイレもなく、使いづらい。また、災害基地となるようなスペースや憩いの場となるようなスペースがあってもよいと思う。機能一辺倒では夢がない。

委員：議会棟が別棟で木造という文言があるが、参考資料のゾーニング案ではどこに示されているのか？また、6階建てで敷地の南側というのは決定なのか？駐車台数も150台とのことだが、テニスコートを含めてもう少し広範囲に取る等、今後可能性をもたせて検討できるか？また、木質化・木造化の考え方についてどのように考えているのか？設計業者から提案を受けるだけなのか、市民会議で提案を受ける機会があるのか、伺いたい。

事務局：今回のオフィス環境等調査はあくまで現況の調査である。今後のプロポーザルでは、周辺自然環境との調和等といった「かぬまらしさ」の提案を期待している。また、延期している間、他市の事例を調査し、仮設庁舎や仮庁舎への移転が、費用も手間がかかることが分かった。今回の参考資料のゾーニング案は、オフィス環境等調査で、仮設庁舎を建設しないでどういったことが考えられるかを提案していただいたものである。この案では、オフィス棟は狭くなるが、その分駐車場を広くとれる、議会棟を別棟とする余地も生まれ、市民ホールを併設することで市民生活に寄与する部分となる。このような提案をプロポーザルで期待している。また、今回は設計コンペではなく、設計者を決めるプロポーザルである。設計者から示された提案について市民会議で意見を頂き、よりよいものを作りたいと考えている。

委員長：一言でいえば、現段階ではあまり条件付けはせず、設計業者の実力や発想、考え方で順位付けをしようということが技術提案である。

委員：現庁舎位置と決定した理由について伺いたい。

事務局：基本構想策定における鹿沼市庁舎整備検討委員会で、6箇所の候補地のうち現庁舎敷地と下水道事務所周地の2箇所を並列で答申していただき、その後、庁内推進体制でさらに詳細に検討した結果、これまでも市の中心地である現庁舎位置を選定した。

委員長：市庁舎の位置を変更する場合は、地方自治法上、市議会の3分の2以上の賛成が必要である。市議会としても意見が二分していて、難しかったのではないかと。そのように、いろいろな理由が合わさり、現庁舎敷地と決定したようである。

委員：当初、市長の話では斬新な庁舎を作りたいという話があり楽しみにしていたが、現状では特段他市と違いはないのかなと感じている。機能も必要だが、木造や木質化等の「かぬまらしさ」を取り入れた斬新な庁舎にするため、市民会議委員の方々には積極的に意見を出していただければと思う。市議会としても、調査や意見交換をし、議会の総意を発表できる特別委員会を作ったところであり、皆様の意見を頂戴しながら全員が納得できるような庁舎を作っていきたいと思う。

委員：御殿山会館別館を取り壊すということだが、跡地の利用について教えていただきたい。

事務局：新庁舎整備とは関係ないが、公共施設総合管理計画の中で取り壊しが決まり、今年度秋祭りが終了した後、解体工事を発注する予定と聞いている。正式な決定ではないようだが、跡地の利用については、祭事に多目的広場になるような駐車場とすると聞いている。

委員：跡地に市役所の分館を建設すれば、高層化する必要はないのではないかと？また、新庁舎を一気に建てるのではなく、半分を先に建設し仮庁舎とし、残りを資材単価や建設費の高騰が収まるまで待てば、安く合理的に建てられるのではないかと？

委員長：資材単価にしろ労務費にしろ、栃木県の場合ではオリンピック後も国体等を控えており、総合スポーツゾーンの建設が始まるので、一概に安くなるとは言えない。専門誌では2016年がピークではないかと予想しているが、経済は見通しが難しい。しかし、熊本地震を受け、市が事業費の問題ではなく、人命の問題、市民サービスの継続の問題であると判断したと個人的には捉えている。また、公共施設総合管理計画は国の指示で全国の

市町村が策定し、現在の公共施設の面積から約20～30%削減しないと財政がもたないというシミュレーションされている。とはいえ、市庁舎の建設を諦めるわけにもいかないので、できるだけ事業費を抑えて検討はしていくが、空き地に建設するとか資材費が下がるまで待つという判断は難しいのではないかと思う。

事務局：いろいろ業者から話を聞くが、現在はオリンピックや庁舎等の公共事業が一杯で建設費が高騰しており、民間はそれを見越して待っている状態である。また、県内では国体が控えているため、建設費は高止まりしたままという見通しがたつとのことである。しかし、熊本地震を受けて、公共施設等適正管理推進事業債という、平成32年度までに完成すれば起債額の約2割が交付税措置される国の政策ができ、県内他市の動きも加速してきた。市としてもいつまでも待つのではなく、工法の見直し等、いかにコストを抑えられるかを考えて進めていきたい。

委員：つまり、平成32年度までに完成すれば、約2割安く作れるということか。

事務局：そのとおりである。市の持ち出し分が少なくなるということである。

委員：スケジュールについて伺いたい。昨日、市議会で特別委員会を設置し、これから市議会としての意見を整理しようとしているところであるが、今後のスケジュールでは年明けにはもう設計業者と契約となっている。先ほど御殿山の利用という意見があったが、個人的にも御殿山をある程度平らにして利用すべきと思っている。この他にも様々な意見、考え方を持っている議員がおり、これから集約していこうと決まったところであるが、もう半年後には決定してしまうということか？

事務局：6月議会でも答弁した通り、スケジュールは資料4のとおり考えている。また、基本設計プロポーザルでは、建設場所の確定と課題の設定は必須であり、その上で技術提案を受ける。また、御殿山公園については何度も意見を頂いているが、都市計画法に定められた都市公園であり、みだりに廃止してはならないとされている。また、テニスコートを廃止する場合は、同規模のテニスコートを近接した市街化区域内に確保する必要がある。さらに、代替地の取得や都市計画の変更手続き等に1年半以上は必要である。建設費は高止まりしているが、新庁舎整備事業を再開するということは、防災拠点の整備を最優先とするということである。コストを抑えて良い庁舎を建てられるように、市民会議で意見を出し合い、それを受けてプロの目で提案をして頂くことが基本設計プロポーザルである。ここでまた、改めて場所について議論をはじめ、防災拠点の整備を先延ばしすることは本末転倒ではないかと考えている。

基本的な考え方としては、これまで約3年間をかけて議論した基本構想と基本計画を基に、今後も議論を進めていく考えである。また、あくまでプロポーザルは設計業者を決めるものであり、提案頂いた内容をそのまま決定するわけではない。設計業者選定後、市民会議や議会で提案内容についてご意見を頂き、調整を図っていきたいと考えている。

委員長：次回はプロポーザルの技術提案書の内容について議論し、ご意見を頂戴する予定である。その他特に意見なし。

⇒議事(1)～(3)について、委員一同承認。

## 6. その他

- ・特に意見なし。

## 7. 閉会

- ・次回予定 第2回会議 7月24日(月) 13時30分～ 市民文化センター大会議室